

はじめに

埼玉県は観光への取組の一つとして、スポーツを取り入れた「スポーツツーリズム」を推進している。スポーツは人々の心身の豊かさを支えるだけでなく、観戦やイベントなどによって地域経済の活性化にも繋がるものである。「スポーツツーリズム」を推進することにより、観光客の増加、観光資源の認知度の向上、地域活性化、関連事業の活性化などが期待できる。

本稿では埼玉県の観光及びスポーツの状況を基に、スポーツツーリズムを通じた埼玉県の観光の活性化について考えてみたい。

埼玉県の観光の現状

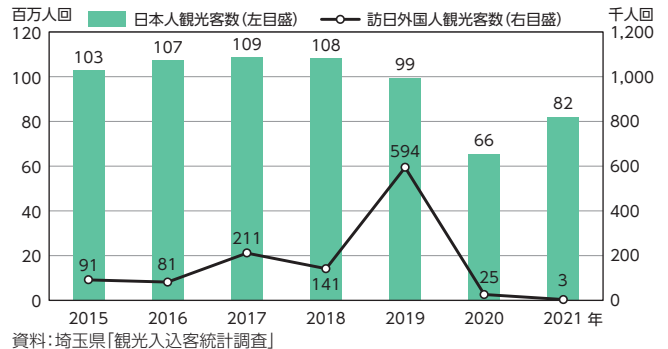
(コロナ禍から回復傾向に転じた埼玉県の観光)

埼玉県の観光の現状を確認するために、観光入込客数(以下「観光客数」という)と観光客消費額をみていく(ビジネス目的の観光は除く)。観光客数は、観光地点を訪れた観光客を数えた値で、1人の観光客が県内の複数の観光地点を訪れたとしても1人回と数える。観光地点とは、日常利用者が少なく日常利用者以外の人が集まる場所を指す。具体的には、①月1回以上の頻度で訪問する人数の割合が半分未満と判断される地点、②観光客数が適切に把握できる地点、③前年の観光客数が年間1万人以上もしくは前年の特定月(1~12月のいずれか)の観光客数が5千人以上である地点の3つを全て満たしたものをいう。

まず、埼玉県の日本人観光客数及び訪日外国人観光客数をみると、2015年から2018年までほぼ横ばいであった。2019年には、ラグビーワールドカップの開催があったことにより訪日外国人観光客数が増加し、594千人回となった。2020年は新型コロナウイルス感染症拡大により日本人観光客数は66百万人回に減少し、訪日外国人観光客数は25千人回に減少した。2021年は東京オリンピック・パラリンピックの

開催やGo To トラベル事業があったことから、日本人観光客数は回復に転じたが、訪日外国人観光客数は外国人観光客の日本への受け入れをしなかったため低いままとなっている。

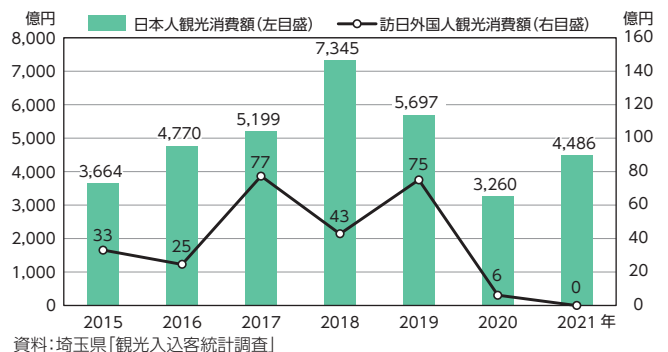
●埼玉県の日本人観光客数と訪日外国人観光客数



次に、埼玉県の日本人観光消費額をみると、2015年から増加傾向にあり、2018年は7,345億円となった。2020年にかけて減少し3,260億円となったが、2021年は4,486億円と増加し回復に転じた。訪日外国人観光消費額については、2019年まで増減に波があったが、コロナ禍の2020年及び2021年は低迷した。

コロナ禍以前と比べて観光客数と観光消費額は回復の方向にある。現在は新型コロナが5類になり、外出制限もなくなったことにより、今後は更なる回復が見込まれる。

●埼玉県の日本人観光消費額と訪日外国人観光消費額

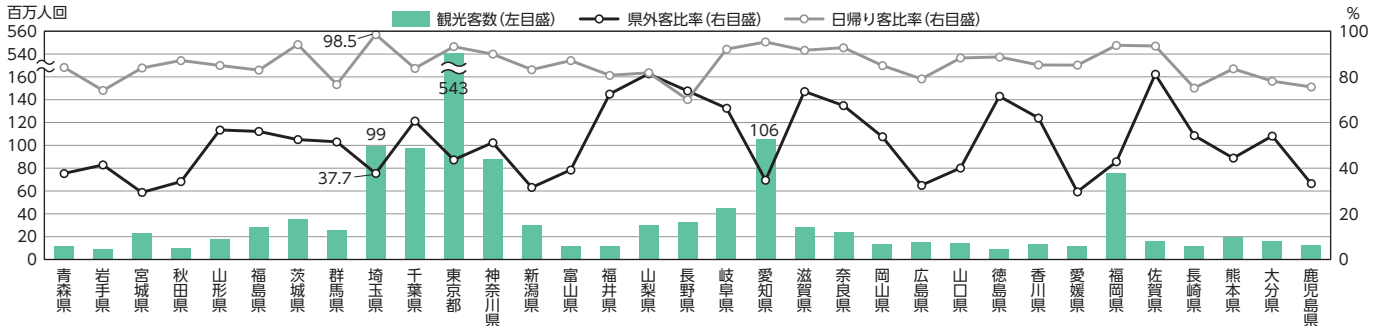


(日帰り客の多い埼玉県の観光)

観光庁が公表している「共通基準による観光入込客統計」により埼玉県の観光客の特徴をみていく。

の活性化を考える

●都道府県別の観光客数、県外客比率、日帰り客比率(2019年)



資料:観光庁「共通基準による観光入込客統計(2019年)」、東京都「平成31年・令和元年東京都観光客数等実態調査」
 (注)記載のない道府県は公表されていない。東京都はビジネス目的の観光が含まれる。

通常時の状況を確認するため、新型コロナの影響がない2019年の統計をみる。埼玉県の日本人観光客数は99百万人回で東京都、愛知県に続いて全国3位である。観光客の居住地別では県外客比率は37.7%と6番目に低く、宿泊・日帰り別では日帰り客比率は98.5%と全国で最も高い。県外客の宿泊・日帰り別をみても日帰り客比率は97.2%と全国で最も高い。

埼玉県の観光は交通の便がよく都心からのアクセスがし易いこともあり、県内客・日帰り客中心となっている。

(埼玉県への観光目的)

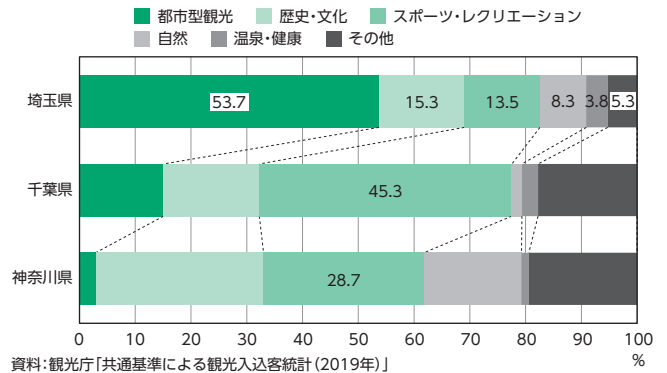
それでは日帰り客は何を目的として埼玉県へ観光しにきているのだろうか。

埼玉県への観光客の観光目的をみると、都市型観光が53.7%(6,987万人)で最も多く、2番目は歴史・文化で15.3%(1,993万人)、3番目はスポーツ・レクリエーションで13.5%(1,760万人)である。都市型観光とは、買物・飲食等(日常利用が大半を占めるものは含まない)を指し、埼玉県ではイオンレイクタウン(越谷市)やサイボク園内豚のテーマパーク(日高市)等への観光が該当する。スポーツ・レクリエーションとは公園やスポーツ施設、遊園地等のことを指し、埼玉スタジアム2002(さいたま市)や西武園ゆうえんち(所沢市)等への観光が該当する。

埼玉県と同様に都心からアクセスがよく、観光客数の近い千葉県及び神奈川県をみると、千葉県はスポーツ・レクリエーションが45.3%、ディズニーランド

やZOZOマリンスタジアムなどがあることから最も高い割合となっている。神奈川県は歴史・文化は鎌倉、スポーツ・レクリエーションは横浜スタジアム、自然は湘南や江の島などがあることから均等な割合で高くなっている。埼玉県のスポーツ・レクリエーションの割合は他2県と比較して少ないことから、今後の取り組み次第では成長の余地があるといえるのではないだろうか。

●埼玉県観光地点別の延べ観光客割合(2019年)



資料:観光庁「共通基準による観光入込客統計(2019年)」

埼玉県の豊富なスポーツ資源

スポーツを目的とした観光客を増やすには、県民のスポーツへの高い関心、スポーツ施設やチームなどの豊富なスポーツ資源が必要であろう。そこで、埼玉県のスポーツの現状をみていく。

(スポーツ行動者数・観戦者数は全国上位)

埼玉県民のスポーツ行動者及び観戦者の数と人口に対する割合を通じて、埼玉県民のスポーツへの関

心の高さをみる。スポーツ行動者とは、1年間でスポーツを一度以上行った人を指し県外での行動を含む。

まず、スポーツ行動者数をみると、総務省が5年毎に公表している「社会生活基本調査」によれば、2021年の埼玉県のスポーツ行動者数は4,586千人で全国5位であり、スポーツ行動者率は69.3%で全国3位であった。

●都道府県別のスポーツ行動者数、行動者率(10歳以上・2021年)

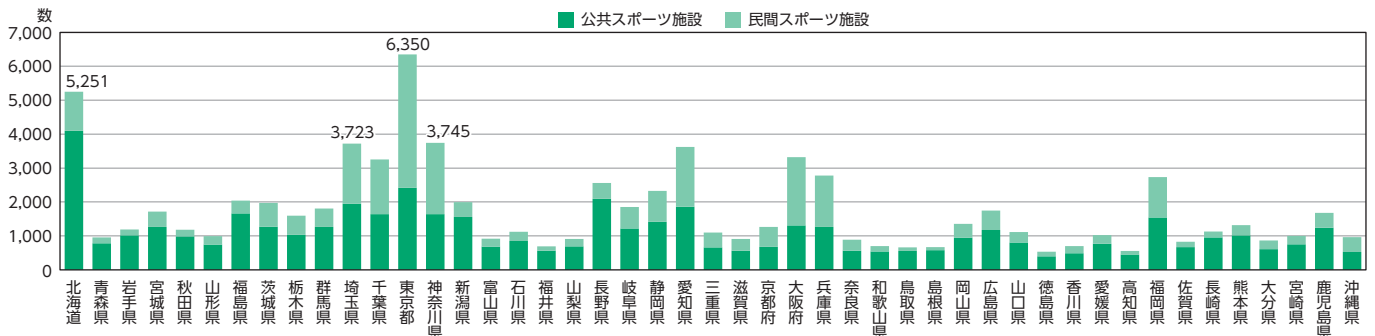
千人			%		
順位	都道府県	行動者数	順位	都道府県	行動者率
1	東京都	9,483	1	東京都	74.5
2	神奈川県	5,991	2	神奈川県	71.8
3	大阪府	5,228	3	埼玉県	69.3
4	愛知県	4,627	4	愛知県	68.8
5	埼玉県	4,586	5	千葉県	67.4
6	千葉県	3,821	6	滋賀県	67.2
7	兵庫県	3,234	7	福岡県	67.0
8	福岡県	3,019	8	京都府	67.0
9	北海道	2,869	9	群馬県	67.0
10	静岡県	2,149	10	熊本県	66.6

資料:総務省「令和3年社会生活基本調査」

次に、埼玉県のスポーツ観戦者数(埼玉県民の県外会場での観戦を含み、テレビ・スマートフォン・パソコンなどの観戦を除く)をみると、2021年の埼玉県のスポーツ観戦者数は972千人で全国5位であった。人口に対するスポーツ観戦者率は広島県が22.9%と突出して高く、埼玉県は14.7%で全国12位であり、プロ野球チーム(NPB)のある都道府県(広島県:広島東洋カープ、北海道:北海道日本ハムファイターズなど)が上位12位以内に収まっている(20位の千葉県を除く)。プロ野球チームのある都道府県ほど、スポーツ観戦者率が高いと推測される。

埼玉県はスポーツ行動者率と観戦者率が全国的にみて高く、埼玉県民のスポーツへの関心が高いことが分かる。

●都道府県別の公共・民間スポーツ施設数(2021年度)



資料:スポーツ庁「令和3年度体育・スポーツ施設現況調査」

●都道府県別のスポーツ観戦者数、観戦者率(2021年)

千人			%		
順位	都道府県	観戦者数	順位	都道府県	観戦者率
1	東京都	1,918	1	広島県	22.9
2	神奈川県	1,272	2	宮城県	19.2
3	大阪府	1,162	3	福岡県	17.4
4	愛知県	1,074	4	大分県	17.1
5	埼玉県	972	5	愛知県	16.0
6	福岡県	785	6	北海道	15.5
7	千葉県	777	7	熊本県	15.3
8	北海道	714	8	神奈川県	15.2
9	兵庫県	678	8	京都府	15.2
10	広島県	567	10	東京都	15.1
11	静岡県	426	11	秋田県	15.0
12	宮城県	397	12	埼玉県	14.7
13	京都府	351	12	大阪府	14.7

資料:総務省「令和3年社会生活基本調査」

(スポーツ施設の数も全国上位)

埼玉県はスポーツを行うことや観戦をする上での設備が整っている。埼玉県のスポーツ施設数は、3,723(公共スポーツ施設1,949、民間スポーツ施設1,774)で全国4位である。種目別の施設数をみると、野球場・ソフトボール場634(全国1位)、庭球場(屋外)342(同3位)、多目的運動場297(同8位)などが多い。埼玉県は全国的にみてもスポーツ施設が多いことがわかる。埼玉スタジアム2002(さいたま市)やさいたまスーパーアリーナ(同市)、熊谷ラグビー場(熊谷市)などの大規模なスポーツ施設もあり、大きなスポーツイベントの開催を行うことも可能である。

(プロスポーツチーム及び実業団の状況)

埼玉県には多くのプロスポーツチーム及び実業団がある。埼玉県におけるプロサッカーチームは2チームあり全国で4番目に多く、女子プロサッカーチームは3チームと全国で1番多い。野球については、NPBとBCリーグを合わせると、東京都と神奈川県に並び全国で1番多い。

● 埼玉県のプロスポーツチーム及び実業団(一部抜粋)

名称	種目	ホーム
浦和レッドダイヤモンズ	サッカー	さいたま市
大宮アルディージャ		さいたま市
浦和レッズレディース		さいたま市
大宮アルディージャVENTUS	女子サッカー	さいたま市
ちふれASエルフェン埼玉		狭山市、飯能市、日高市、熊谷市
埼玉西武ライオンズ	野球	所沢市
埼玉武蔵ヒートベアーズ		熊谷市
戸田中央メディックス埼玉	ソフトボール	戸田市
越谷アルファーズ	バスケットボール	越谷市
さいたまブロンコス		さいたま市、所沢市
埼玉アザレア	男子バレーボール	川越市
上尾メディックス	女子バレーボール	上尾市
埼玉パナソニックワイルドナイツ	ラグビー	熊谷市
T.T彩たま	卓球	埼玉県
さいたま那須サンブレイブ	自転車ロードレース	さいたま市、那須塩原市
ALDER飯能	ホッケー	飯能市
OSAKI OSOL(大崎オーソル)	ハンドボール	三芳町

資料:埼玉県ホームページ等より作成

様々なプロスポーツチーム及び実業団があることで、今までスポーツに関心のなかった県民がスポーツに興味を持つ機会が増えるとともに、スポーツイベントを目的とした観光客が増えるきっかけとなることも想定できる。

スポーツツーリズムの推進

以上をまとめると、埼玉県の観光は回復の方向にあるがスポーツ・レクリエーションを目的とした観光客が比較的少ない。一方、スポーツ行動者・観戦者・スポーツ施設・スポーツチームが全国的にみて多くあり、大規模なスポーツ施設も整っている。

こうした状況のなか、埼玉県はスポーツを目的とした観光客を増やすため、スポーツツーリズムを推進している。スポーツツーリズムとは、「スポーツ×観光」であり、スポーツを「する」(大会参加など)、「観る」(スポーツ観戦など)、「支える」(ボランティアやマネジメントなど)の3つの観点に関わる様々な観光のことである。

(今後期待される埼玉県の取組)

今後の埼玉県のスポーツツーリズムの推進について、2つの方法を取組事例を踏まえて考えたい。

1つ目は資金を投入し、スポーツ施設の整備、イベントの開催やプロスポーツチームを誘致する方法で

ある。埼玉県はラグビーワールドカップ2019の開催に合わせて、熊谷ラグビー場の改修を行った。本大会のうち3試合の誘致に成功し、当日は屋台やイベントが併催され観光客やボランティアで賑わった。2021年にはプロラグビーチームの埼玉パナソニックワイルドナイツをホームタウンとして誘致した。同チームは2022年にラグビーリーグワンにて優勝を果たし、熊谷市で行われた優勝パレードには約1万人の観光客を集めた。施設の整備に費用は掛かるものの、観光客を増やし観光地点のイメージ・認知度を一気に高めることが可能な取組である。

2つ目は自然環境や既存のインフラを活用する方法である。埼玉県は自転車を使った観光(サイクルツーリズム)を推進している。2022年に策定された「第2次埼玉県自転車活用推進計画」によると、サイクルツーリズムを推進するために埼玉県の観光地点を発信するとともに自転車交通環境の整備等を促進するとしている。「自転車みどころスポットを巡るルート100」を設定し、ルートの中で観光スポットや飲食店などの情報を発信している。単にスポーツをするだけの行動から、スポーツをすることに加えて地域を観光する活動へと発展させる取組である。サイクルツーリズムは居住地からの出発が多いと想定され、スポーツ行動者数が全国で最も多い東京都が隣県であることから県外観光客の増加が期待でき、ルート設定次第では宿泊を促すことも可能である。

以上のように、施設の整備、イベントの開催、プロスポーツチームの誘致、自然環境及び既存のインフラを活かす政策などの多面的な取組によって、埼玉県の観光を活性化させることができると考えられる。

埼玉県にはスポーツ資源が豊富という強みがあり、スポーツツーリズムの先進県となるポテンシャルがある。今後、スポーツツーリズムを通じた埼玉県の観光が更に活性化することに期待したい。

(篠田竜也)